
ポケットモンスター ユウキのストーリー カントー編

S・S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター ユウキのストーリー カントー編

【Nコード】

N3352Z

【作者名】

S・S

【あらすじ】

この世界にはポケットモンスターと呼ばれるいきものが山に、森に、海に、空に、町にいたるところに生息している。

その数は100、200、300、400、500、600いや、それ以上かもしれない

そして今ここに少年ユウキとポケモンとのキズナのストーリーが始まる

今日から僕は・・・(前書き)

今、少年ユウキの物語が始まる。

今日から僕は・・・

とある少年の部屋にまぶしい朝日が差し込み
寝ている少年の顔を照らす。

「・・・うん・・・朝か・・・!!?、そうだ、今日は!」

「?視点」

ガバツ、

僕は今日が僕にとって特別な日であることを思い出し
ベットから飛び起き着替えてリビングへ向かった。

「リビング」

「?」おはよう!母さん!」

母「おはよう、ふふ寝ぐせ治さないと今日の卒業式でわらわれるわ
」

ここで僕の自己紹介をさせてもらおうよ。

僕の名前はユウキ

歳は11歳

首に巻いた赤いスカーフがトレードマークのマサラトレーナーズスクールの

第38期生で今日はその卒業式なんだ午後にオーキド博士にポケモンをもらって

旅に出るんだ！

・・・でもできればあいつも一緒に連れて行きたいな・・・

母「ほら、はやく朝ごはん食べて寝ぐせ直しなさいよ。」

ユウキ「はい」

そして僕は朝ごはんを食べてたくして、家を出た。

（通学路）

僕が通学路を少し歩くと僕の幼馴染のライトとアキがいたので声をかける

ユウキ「お〜い、アキ〜、ライト〜!!」

僕が手を振りながら呼ぶと二人は振り向き

ライト「よお、ユウキ!!」

アキ「おはよ、ユウキ!!」

二人とも振り向いて挨拶した。

そして、3にんで談笑しながら登校していると後ろから
トラブルメーカーの声がした。

?「おい!!、ユウキ待ちやがれおれのライバル!!」

僕が振り向くとそこには赤髪がトレードマークのリユウがいた。

リユウは僕たちの中で唯一自分でタマゴからかえしたタツベイを持
っている

僕たちの同級生でスクールの授業のレンタルポケモンでのバトル実
習では

僕との戦績が50勝50敗で何かと張り合っていた

リユウ「おい!ユウキ!卒業式が終わったら先生に頼んで旅出る前に
レンタルポケモンバトルしようぜ!!」

リユウが挑戦状をたたきつけてきたので僕は迷わず、

ユウキ「ああ、望むところだよ！」

僕は挑戦をうけた。

アキ「いいの？ユウキ？午後からオーキド博士の研究所でポケモンをもらう約束してるんだよ。」

ユウキ「平気、平気 旅立ち前のあいつと一緒に戦うラストバトルだ。」

ライト「あいつって・・・ああ、お前のスクールでのパートナーか。」

ライトが分かったという表情をした。

リュウ「よし、そんじゃあ放課後俺のタツベイとおまえのあいつ最終決戦だぜ！」

ユウキ「負けないよ！」

こうして放課後僕たちのバトルが約束されたのだった。

アキ「ハアア・・・しょうがないか」

ユウキ「！／／／／／」

アキもため息をついて了解してくれた

そのため息をついた顔にすこし僕は見ほれてしまった

〈放課後〉

僕たちは今スクール裏のバトルフィールドで先生立会いの下バトルを始めようとしていた、

ちなみに余談なんだけど先生は最初は渋っていたけど校長先生が「卒業式ぐらいいいじゃないか」といつてくれて許可されたんだ。まったく校長先生さままだね。

その校長先生は今観客せきでアキたちと観戦していた

そして、僕と反対サイドにいるリュウが叫ぶ。

リュウ「いくぜ！ユウキ！、タツベイ、スタンドアップだ！！」

タツベイ「タベーーーー！！」

リュウは、腰につけていたモンスターボールを投げタツベイを出した
そして、でてきたタツベイは雄たけびを挙げた。
よし僕も・・・頼むよ君とのラストバトルだ！
そして僕もボールを手に取りあいつをだした

ユウキ「頼んだよ！！、ナックラー！！」

ナックラー『クラー！！』

ボールからナックラーが元気よく飛び出した。

リュウ「いくぜ、タツベイ！」

ユウキ「頼むよ、ナックラー！」

「バトルスタート！！」

いま僕とナックラーの最後のバトルが始まった。

今日から僕は・・・(後書き)

・・・と、言うわけでポケモンの小説を書き始めました。

ロックマンのよりは更新遅いと思いますがどうぞ温かい目で見てくだ
さい。

では、次回「タツベイVSナックラー」お楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3352z/>

ポケットモンスター ユウキのストーリー カントー編

2011年12月11日16時51分発行